

県大 jiman

2015
JULY
017
滋賀県立大学広報誌

「県大jiman」とは、
滋賀湖と自然をテーマカラーにし、湖を介して
自然と人、人と人とのつながりを広げ、
自然と人、人と人とのつながりを広げ、
自然と人、人と人とのつながりを広げ、

県大イベントカレンダー

- 7月 1日 大学院入学試験（工学研究科博士前期課程）
- 8日 第4回就職セミナー（仕事研究セミナー）
- 18日 調整期間（月曜日授業の補講等）
- 25日 オープンキャンパス
- 26日 オープンキャンパス
- 29日 調整期間（水曜日授業の補講等）
- 30日 調整期間（木曜日授業の補講等）
- 31日 調整期間（金曜日授業の補講等）
- 8月 1日 調整期間（火曜日授業の補講等）、前期授業終了
- 3日 前期定期試験（～7日）
- 8日 夏季休業開始
- 10日 調整期間（集中講義）（～12日）
- 21日 地域活動実践ターム（～23日）
- 24日 大学院入学試験（人間文化学研究所博士前期課程）
- 27日 大学院入学試験（工学研究科博士後期課程）
- 28日 大学院入学試験（工学研究科博士前期課程）
- 29日 荒神山ロックフェス2015
- 30日 荒神山ロックフェス2015
- 9月 9日 調整期間（集中講義）（～11日）
- 16日 調整期間（集中講義）（～18日）
- 24日 大学院入学試験（環境科学研究科博士前期課程）
- 25日 大学院入学試験（環境科学研究科博士前期課程）
- 28日 大学院入学試験（環境科学研究科博士後期課程）
- 30日 夏季休業終了
- 10月 1日 後期授業開始
- 8日 第5回就職セミナー（就職活動本番準備セミナー）
- 12日 祝日授業日（月曜日科目）
- 15日 大学院入学試験（人間文化学研究所博士前期課程）
- 16日 大学院入学試験（人間文化学研究所博士前期課程）
- 27日 大学院入学試験（人間看護学研究所修士課程）
- 28日 第6回就職セミナー（就職活動体験発表）
- 11月 12日 月曜授業日
- 13日 大学祭前日準備（全学休講）
- 14日 大学祭「湖風祭」
- 15日 大学祭「湖風祭」
- 16日 大学祭後片付け（全学休講）
- 18日 第7回就職セミナー（業界研究、会社の見方・調べ方）
- 22日 特別選抜試験
- 28日 第8回就職セミナー（ES対策セミナーと模擬テスト）
- 12月 2日 第9回就職セミナー（職種研究）
- 5日 TOEIC試験
- 9日 第10回就職セミナー（GDセミナー）
- 19日 第11回就職セミナー（面接対策セミナー）
- 21日 第12回就職セミナー（学内業界研究会事前説明会）
- 25日 冬季休業開始
- 1月 4日 冬季休業終了
- 5日 調整期間（集中講義）（～7日）
- 12日 業界企業研究会（～14日）
- 14日 月曜授業日
- 15日 センター試験前日準備（全学休講）
- 16日 大学入試センター試験
- 17日 大学入試センター試験

特集

開学20周年記念式典

湖風夏祭
ホームカミングパーティ

突撃! jimanな先生

After School Report

Information

News 未来人財基金のお知らせ

20

開学20周年

滋賀県立大学

特集

祝！県大開学 20 周年 20 周年記念式典

今回のテーマは「祝！県大開学20周年」
1995年の開学から20周年を迎えた県大。
20周年記念式典やホームカミングパーティー、
また同日に開催の湖風夏祭^{うみかぜなつまつり}には、
多くの方々が参加されました。
これまでの歩みを卒業生の方や先生の声を通して
振り返り、県大の良さを再発見しました。
そこで今回は開学から20周年という節目から、
新たな一歩を踏み出す県大に迫ってみましょう。

KENDAI

JIMAN



開学20周年

CONTENTS

特集

- 03 20周年記念式典レポート
- 05 湖風夏祭
- 07 ホームカミングパーティー
- 09 突撃！jimanな先生

理事・副学長 濱崎一志先生

県大 REPORT

- 11 After School Report
アコースティックサウンドクラブ 20年分の音を奏でよう
- 12 information
- 13 News:未来人材基金のお知らせ

年2回発行

夏号 7月下旬
冬号 2月上旬

ABOUT

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」は県大が持つキラリと光る「jiman」なところを紹介する広報誌です。「県大 jiman」は今年で創刊 9 年目を迎えました。

学生広報スタッフ大募集！

広報誌作成グループでは、県大 jiman の作成に参加してくれる学生を募集しています。私たちと一緒に、県大の素敵な「jiman」をしてみませんか？デザインや編集の専門知識が無くても大丈夫です。外部のデザイナーさんや編集者を招いて勉強会なども行う予定ですので、興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

20 年後の自分にメッセージ



いつまでも
若い気持ちを忘れずに！
(人間関係学科3回生 福本萌)



アラフォーには
アラフォーの良さがありますよ
(生活デザイン学科3回生 中道千尋)



強がることなく、
強くなっていますか
(人間関係学科3回生 井上友希)



ラッキーでハッピーなおおちゃんになっ
ている事でしょう！多分ね！
(生活デザイン学科2回生 本保絵莉子)



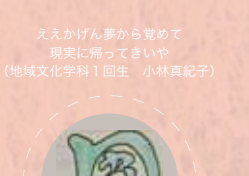
20年なんて
あっという間でしたね
(生活デザイン学科2回生 小川晴香)



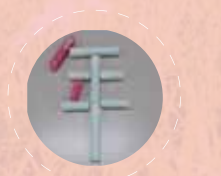
簡単な暮らし方、
できてますでしょうか
(生活デザイン学科2回生 林晶)



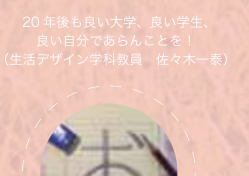
自分のやりたいことが
できていますか
(機械システム工学科1回生 吉川知秀)



ええかげん夢から覚めて
現実に戻ってきいや
(地域文化学科1回生 小林真紀子)



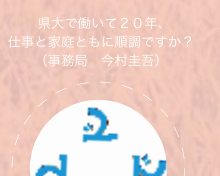
若者の考えを理解できる
62歳であってください
(機械システム工学科教員 河崎澄)



20年後も良い大学、良い学生、
良い自分であらんとことを！
(生活デザイン学科教員 佐々木一泰)



明るく楽しい大学職員を
続けてください
(事務局 玉井大輔)



県大で働いて20年、
仕事と家庭ともに順調ですか？
(事務局 今村圭吾)



トマトたくさん食べて
元気です！
(事務局 柳沼勇多)



相変わらず、毎日忙しくして
るでしょね。時には休息を！
(事務局 中嶋崇裕)

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第17号
発行 | 滋賀県立大学広報委員会
編集 | 広報誌作成グループ
〒522-8633 滋賀県彦根市八坂町 2500
TEL | 0749-28-8200
E-mail | keiei_kikaku@office.usp.ac.jp
発行日 | 2015年7月
www.usp.ac.jp

表紙デザイン：中道千尋

滋賀県立大学 開学20周年記念式典

滋賀県立大学開学20周年記念式典

滋賀県立大学は20周年。
人にたとえると成人式を迎える年齢です。
6月6日の開学記念日に合わせ、
開学20周年記念式典が交流センターで開催され、
本学では初めての開学記念式典となりました。

記念式典 特別記念講演会

記念式典は3部構成で行われた。まず交流センターホールで記念講演、つづいて記念式典、その後同ホールホワイエに会場を移し、全学祝賀会（Tea Party）が開催された。最初に記念講演として、山折哲雄（やまおりてつお）氏による『岐路に立つ大学―個と「ひとり」―』が行われた。山折氏は宗教学者で、国際日本文化研究センターの名誉教授でもある。本学では平成8年に非常勤講師として人間学「民族と宗教」の講義を担当されている。

山折氏の講演では「昨年、消滅可能性自治体が発表された。政府は地方創生を強調し、メディアでも大きく取り上げられている。大学も学生が減少すれば厳しい時代となる。先人たちはひとつのことを決定するにしても寄合での徹底的な話し合いに多くの時間を費やしていた。スピードを求められる現代ではあるが、私たちは今こそ、先人たちの手法を学ぶべきではないだろうか。地方創生のひとつとして、極論ではあるが、大学が消滅

その一つで会場の方々の喉を潤した「政所茶」は、石田三成が幼少の頃、豊臣秀吉に出した「三献茶」として有名である。会場でこのお茶を提供した「政所茶レンジャー」（まんどころ茶レンジャー）は、東近江市政所町にて「茶作り・情報発信・イベントの開催」を3本の軸として活動を展開している。

また、本学学生が商品企画から販売促進まで手がける日本酒プロジェクトの「湖風」も会場で販売され、記念式典のお土産として好評だった。同プロジェクトは、県大の圃場で原料米「日本晴」の栽培・収穫の後、酒蔵での研修、酒の味を決める原酒の利き酒などを経て、毎年純米大吟醸を完成させている。

祝賀会会場には県大と様々な地域との関わりの歴史を感じる展示が並んだ。「県内のふるさと絵図（絵屏風）」は、人々の五感体験

軌跡

可能性のある自治体を取り取り、そこに教員や学生を住まわせ、民主主義の原点に立ち返り、行政、政治、経済、教育、福祉等それぞれの問題を現地の人々と話し合い、一から作り上げるといった思い切った行動も必要なのではないか。など斬新な視点から貴重なご意見が述べられた。

の可能性がある自治体を取り取り、そこに教員や学生を住まわせ、民主主義の原点に立ち返り、行政、政治、経済、教育、福祉等それぞれの問題を現地の人々と話し合い、一から作り上げるといった思い切った行動も必要なのではないか。など斬新な視点から貴重なご意見が述べられた。

式典終了後、ホワイエに会場を移し、全学祝賀会が行われた。会場は、生活デザイン学科の学生や地域の方の協力によって、県大ならではのアウトホームな雰囲気デザイン

をもとに地域における人と自然の物語や、風土に根差した暮らしの記憶を、地域の老若男女さまざまな方の力で一枚の絵として表現したものである。この絵図を制作し活用する一連の手法は心象図法と呼ばれ、本学教員の教育研究・地域連携活動の中で開発された。この手法は世代間のコミュニケーションを促し、地域の歴史や文化を継承し、地域の魅力を再発見し、過去の歩みを踏まえて地域の未来を描く独創的なまちづくりの手法として注目されている。

「歴代のキャンパスガイド」では開学時からの大学案内が並び、手に取った方は各々に県大の成長の軌跡を振り返っていた。

記念式典当日は、湖風夏祭（うみかせなつまつり）が同時に開催され、学生主体の催しが式典に華を添えた。式典の途中にはサプライズで湖風祭実行委員会による花火が打ち上げられ、学生や湖風夏祭の来場者も一緒に県大の20周年を大いに祝う日となった。

祝賀会会場には県大と様々な地域との関わりの歴史を感じる展示が並んだ。「県内のふるさと絵図（絵屏風）」は、人々の五感体験



滋賀県内のふるさと絵図



歴代キャンパスガイド



「湖風」を販売する学生



政所茶レンジャーのメンバー



大学の将来を語る山折氏



飲み物や食べ物が振る舞われた会場



短大時代からの歴史展示

滋賀県立大学開学20周年記念式典
日時 2015年6月6日（開学記念日）
会場 滋賀県立大学 交流センター



第18回 湖風夏祭



湖風夏祭の季節がやってきました。今年のテーマは「わ」。輪・環・和、3つの言葉を盛り込んで県大中が活気に包まれた1日となりました。その魅力を少しでも伝えられるように、今回もjimanスタッフが取材してきました。中でも2つの団体をピックアップしてお届けします！



ステージ企画で盛り上がりは最高潮！



着物姿が似合ってます！



お化け屋敷、謎解きゲーム、コント講演など、楽しい企画がたくさん！食べ物もおいしかったよ！



夜の県大もとっても綺麗！



竹箸作り体験ブース byエコキャンパスプロジェクト

今回スタッフはエコキャンパスプロジェクトの竹箸作りに参加してきました。使用する竹は、こちらでちょうどいい大きさに削ってやすりで磨くと、つるつるした立派な箸が完成します。周りの人たちと話しながらゆったりと竹箸を作ることができ、過ごしやすい空間でした。また、作ったお箸をはしレンタルブースに持っていくと、模擬店のお得券がもらえるんです！

エコキャンパスプロジェクトは学内の生態調査や、犬上川の竹林伐採、野洲川の整備など、自然に関わる活動をしている団体だそうです。興味をもった分野に自由に参加できるのがエコキャンの魅力だとか。



竹箸を作るスタッフ

ハンドメイド雑貨出店 by人間関係学科有志

フリーマーケットに学生が参加するのは珍しいことだとか。そこで、今年はじめてフリーマーケットに出店した学生にお話を聞いてみました。

Q 参加しようと思った理由は？

A もともと趣味で作品を作っていて、その更なる向上のためにも、お客さんや作家さんとお話できるフリマが良い機会になると思ったからです。

Q やってみてどうでしたか？

A 参加者の方々とお話する中でアドバイスをいただけ、とても良い経験になりました。お客さんに褒めてもらったり、手に取ってもらえたりしたことがとても嬉しかったです。

学生たちの作品はとも好評だったようです。こうした交流をきっかけに、県大のフリマの輪がより広がっていくといいですね！



学生たちの作品



ホーム カミング パーティ

HOME COMING PARTY

開学20周年式典と並行し、3学部ではホームカミングパーティが行われました。ホームカミングパーティとは卒業生を母校にお招きし、食事をしながら同窓生と楽しんでもらうイベントです。この機会に、先輩たちから貴重なお話を聞いてきました！

Q. 人間看護学部のOB・OGさんが県大で学んで良かったことは？

当時は琵琶湖からの風を受けながら短大と県大を行き来して授業を受けていた。大変だったけど思い出深い！まだ建物も綺麗でわくわくした。

9期生 人間看護学科

学生が真面目！なので周りに流されることなく勉強できます。

17期生 人間看護学科

看護について学べる総合大学は少ないけれど、ここでは他学部との交流もできるので、自分の視野を広げられる。

9期生 人間看護学科



学内ナシエリア食堂で開催された人間看護学部のホームカミングパーティ。滋賀県立短大からの歴史も長く、県大にこの学部が出来た頃のお話も聞け、様々な世代の卒業生が集いました。

人間看護学部

工学部

工学部は学内カフェテリア食堂で開催。卒業生、教員の他にも、院生や在学学生も参加していました。就活中の在学学生は先輩から目からうろこの話を聞けたようです。



Q. 工学部のOB・OGさんが県大で学んで良かったことは？

社会人なってからも使える学問を教えてくれる！今の設計関係の仕事に直に関係して、そのまま役立っている。

14期生 機械システム工学科

大きく視野が広がった。交通の便もよいこともあり、いろんなところに行けるし、小さな自由ができた。

2期生 材料科学科

研究室の人がよかった。全体的に県大にいる人の人柄も良かった。他にも実習が多いこと、生徒の数が少人数で先生たちとの距離が近いのがいいところ。

11期生 材料科学科

Q. 環境科学部のOB・OGさんが県大で学んで良かったことは？

県外から通学しており、通学時間が長くてしんどかったけど耐久力がついた(笑)。指導教員も面倒見がよかったです。

7期生 環境生態学科

学部学科の垣根が低いので他学部他学科の交流がある！地元の行政や民間企業の人など学外の方が県大生をかわいがってくれる。

9期生 環境生態学科

部活で地域の人と関わる機会があった事。たとえば、吹奏楽部では演奏会を頼まれたり打ち合わせをすることなどしていた。

7期生 生物資源管理学科



圃場の裏で、屋外開催した環境科学部。理系でも男女比が偏らない参加者により終始和やかなムードで行われました。在学当時の授業で、現在も変わらないスタイルで行われている講座に歴史を感じることもありました。

環境科学部



濱崎一志先生

「柱の跡」だけ、よりも建物がそのまま立ち上がっている状態の方がはるかに面白い

濱崎先生の研究分野は建築史。中でも、町並み保存と考古学を研究・調査の対象としている。自分たちでデータを集める中で今までなかったデータが出てくる可能性があるため、魅力を感じたそうだ。先生の調査のフィールドは日本国内にとどまらず、海外にも広がっている。大学院時代には、イラクのメソポタミアの紀元前3000年頃の煉瓦の建物、パキスタンの仏教寺院、そして、シリアのパルミナにあるローマの植民都市の建物を調査して来たとか。いずれも現在は国内情勢の不安定な場所だが、そのようになる前に調査に行っていたのだらうか。「いや、別にそんなことは何も考えていないですね(笑) 調査が終わった頃に保存とかをして帰ると、大変なことになっています」

日本では、例えば建物の「柱の跡」しか残っていない場合が多いが、海外ではその建物の現物が残っている。きつと後者の方がワクワクすること間違いなし！

突撃！ jiman な先生

今回のjimanな先生は、理事・副学長で人間文化学部地域文化学科教授の濱崎一志先生です。私たちが知らない20年前の県大の様子、開学時からの一教員としての想いに迫ります。

今回、濱崎先生から開学当時の写真が多数収められたアルバムをお借りしました！

県大開学当初の様子を語る濱崎先生



20年……

この長いようで短い月日を見つめて

理事として考える、地域連携
開学20周年を迎える今年度から新たに県大の理事を務めることになった濱崎先生。理事の仕事としては、地域連携を担当しているとのこと。県大の学部・大学院での、※近江楽土・近江環人・COC(センター・オブ・コミュニティ)といった、地域に根差した教育研究がそれにあたる。近年、これまで担ってきた教育・研究だけでなく、地域連携も大学に求められてきているのだ。「ただ単に地域に行くって楽しく何かをやっているだけでなく、教育・研究の一環として、ちゃんと得るものは得ながら、自分の研究や発想に生かせるように色々考える。それが大学の地域連携です。もちろん無償のボランティア精神も大事なのですが、それだけで行くと他のボランティア団体と同じになってしまいます」



開学当時の写真の元のフィルム

県大の学生の傾向今昔
この大学の学生は他大学の学生に比べて考え方や発想が素直。先生にとって、そのような学生と教育・研究をするのは楽しいそうだ。
また、以前は滋賀・岐阜県出身者に三世同居をしている学生が多かったらしい。それもあってか、そのような学生は祖父母世代から人として生きていくための生活スキル(家事をする時の知恵、挨拶など)を受け継いでいたとか。最近では核家族化が進み、そのような学生が減っているように感じられる。
「生活スキルがあると、調査に赴いた時に人との話し方や対応の仕方が手慣れていきます」



理事席にて

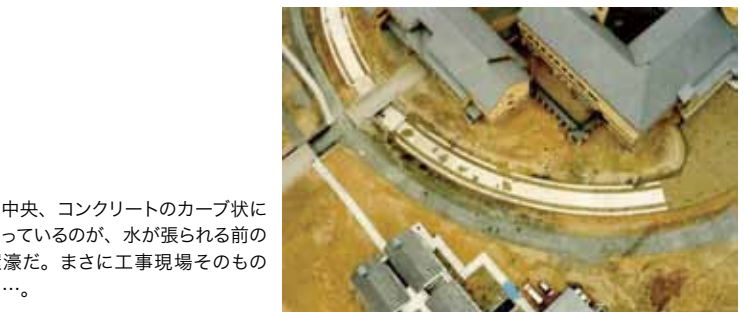
開学20周年ということと学生の皆さんにメッセージを！
「20年というのは長いようで短いですが、みなさんここで4年間なり6年間なり過ごしていかれます。まだまだ若い大学ですが、理事ならびに教員・職員を始め、開学時の柔軟さを忘れずにやっていきますので、みなさんも柔軟さを根底に、守るべきことは守って育っていただきたいと思っています」
※近江楽土：平成22年度から実施している近江楽土(地域学)副専攻のこと。地域で実践的に学ぶことと、ネットワーク力を養うプログラムです。修了すると「コミュニティ・ネットワーク・近江楽土」の称号が授与される。平成27年度からカリキュラムがリニューアルされた。
※近江環人：平成18年度から実施している近江環人(地域再生学)のこと。地域再生のリーダーとなる人材「コミュニティ・エキスパート(近江環人)」を育成することを目的としたプログラム。現在までに約100人を輩出した。
※COC：地(知)の拠点整備事業のこと。本学では平成25年度に採択を受け、今年度から全学で地域教育プログラムを実施している。



▲右下の更地が現在の交流センターの場所にあたる。開学時にはまだなかったため、入学式は体育館で行われた。(ちなみに、現在の入学式の会場である、ひこね市文化プラザができたのは1997年。県大開学から2年後だ)



▲▼県大とその周辺の町並み。水田と住宅街に囲まれたのどかな立地であるのは、今も昔も変わらない。



▶中央、コンクリートのカーブ状になっているのが、水が張られる前の環濠だ。まさに工事現場そのもの……。



Information

受賞・表彰

◆個人(教員等)

地域共生センター 鷗飼 修准教授
 環境省グッドライフアワード2015
 実行委員会特別賞 環境と暮らし特別賞
 生物資源管理学科 上町 達也准教授
 園芸学会 年間優秀論文賞
 地域共生センター 萩原 和准教授
 農村計画学会 奨励賞(論文)
 機械システム工学会 大浦 靖典准教授
 日本機械学会 奨励賞(研究)
 生活デザイン学科 佐々木 一泰講師
 住まいの住環境デザインアワード 大阪ガス賞
 ◆個人(学生) (学年は受賞時点)
 生活デザイン学科 谷村 志帆(3年)
 第13回北方領土の巨ポスターコンテスト 佳作賞
 生活デザイン学科 市井 誠樹(2年)
 エコアイデアコンテスト「エコ2014」
 ミエコ(未来に期待するエコ)賞
 エコシステム専攻博士前期課程 野間 翔太(1年)
 (社)日本非破壊検査協会 第18回表面探傷シンポジウム 新進賞
 生活デザイン学科 山口 晃平(4年)
 2015 第3回国際大会繊維リサイクルアイデアコンペティション
 K1+未利用資源有効活用研究センター特別賞
 生活デザイン学科 足田 享孝(3年)
 リンパーション×フリーダム 学生アイデアコンペ2015 最優秀賞

人事

着任

平成27年4月1日付

廣川 能嗣 理事(研究・評価担当)
 濱崎 一志 理事(地域連携担当)
 倉茂 好匡 理事(教育・学生支援担当)
 大久保 卓也 理事(教育・学生支援担当)
 環境科学部 教授
 門脇 光輝 工学部 教授
 中井 直也 人間文化学部 教授
 和田 有朗 環境科学部 准教授
 山野 光裕 工学部 准教授
 今井 絵理 人間文化学部 准教授
 東田 一彦 人間文化学部 准教授
 HAWKES MARTIN 人間文化学部 准教授
 窪田 好恵 人間看護学部 准教授
 板谷 裕美 人間看護学部 准教授
 畑 直樹 環境科学部 助教

着任

平成27年6月10日付

田中 昂 工学部 助教
 平山 智士 工学部 助教
 伊藤 大輔 工学部 助教
 大橋 正治 工学部 助教
 原 未来 人間文化学部 助教
 小嶋 友美 人間看護学部 助手
 木村 太治 事務局次長
 山田 正弘 総務グループ 副参事
 須戸 郁生 総務グループ 副参事
 中川 良一 経営企画グループ 副参事
 郡田 晶子 教務グループ 副参事
 吉澄 哲政 総務グループ 主幹
 加藤 一郎 地域連携推進グループ 主査
 今村 圭吾 経営企画グループ 主事
 兼松 里織 経営企画グループ 主事
 佐神 章太 教務グループ 主事

退職

平成27年3月31日付

矢野 圭昭 財務グループ 副主幹
 林 周 財務グループ 主査
 玉井 大輔 総務グループ 主任主事
 青笹 千絵 経営企画グループ 主任主事
 退職
 菊池 潮美 理事(教育・学生支援担当)
 仁連 孝昭 理事(地域連携担当)
 布野 修司 理事(研究・評価担当)
 秋山 道雄 環境科学部 教授
 小谷 廣通 環境科学部 教授
 岡野 寛治 環境科学部 教授
 張 晴原 環境科学部 教授
 上田 邦夫 環境科学部 准教授
 田中 他喜男 工学部 准教授
 谷口 義治 工学部 准教授
 石田 法雄 人間文化学部 教授
 浦部 貴美子 人間文化学部 准教授
 篠原 岳司 人間文化学部 准教授
 松本 行弘 人間看護学部 教授
 飯降 聖子 人間看護学部 教授
 清水 房枝 人間看護学部 教授
 炭原 加代 人間看護学部 教授
 山田 明 人間看護学部 教授
 小沢 加奈 人間看護学部 助手
 樋口 かおる 総務グループ 副主幹



アコースティックサウンドクラブ

20年分の音を奏でよう
部室棟の辺りから聴こえてくるのは、自由な音色と愉しそうな笑い声。県大創立時から歴史を刻み、20周年を迎えた大家族・アコースティックサウンドクラブ(以下アコ部)に密着取材!



どこでも弾けちゃう自由な音楽は聴いているとなんだか落ち着く

気さくな笑顔で姿を見せてくれたのは、代表の3回生・目片友貴さん。同じく3回生の畑山貴広さん、2回生の沖村星香さんと西川佳那さんも交えて早速インタビュー!

アコ部に入って成長したと思えることは?
 「人前で行動することに抵抗がなくなっただけ。プロのバンドを知り、音楽の世界を知ったのもひとつ。でも何より、『自慢出来るような人間関係』を築けるようになったことですね。」
 バンドには、固定メンバーで活動する主要バンドのほか、一度のライブごとに結成される短期バンドの二つがあるため、たくさんの人と知り合える。『部室に行けば常に誰かがいる』『何気ないようでも素晴らしい、温かみで充実したひと時を得られる空間がアコ部には保たれているよ。』



アコ部の雰囲気代表するかのよう4人の雰囲気は温かい

最後にこれだけは言っておきたいという事はありますか?
 「アコ部に入れば後悔しない!楽しいこと間違いなし!楽器が弾けない、楽譜が読めないは問題じゃない。まず必要なのは『音楽』と『努力する自分』と『支えてくれる仲間を好きでいること』の三つだけ!」

設立20周年を迎え、どのように感じ、これからどうしていきたいですか?
 「20年も続いたということは必要とされている、認められているということですね。先輩方が築き上げた歴史に肉付けするように、僕達は『新しいこと(学外活動など)に挑戦して、県大の凄さや温かさを地域の人や後世に魅せたいですね。』
 そう述べた目片さん達の意志は強く、これからのアコ部や県大を『自由な音楽』と『温かい笑顔』で支える柱になるに違いない。」

アコースティックサウンドクラブ

- 部員数 / 105人 (5月末現在)
- 活動日時・場所 / 自由 (バンドごとによる)
- 連絡先 HP / <http://acobu.jimdo.com>

アコ部の好きなところ
 皆さんにアコ部の好きなところを教えてくださいました。

生活栄養学科 2回生 西川佳那さん 「人」	人間看護学部 2回生 沖村星香さん 「自由」	生物資源管理学科 3回生 畑山貴広さん 「暖かい」	生物資源管理学科 3回生 目片友貴さん 「エモい」
-----------------------	------------------------	---------------------------	---------------------------

〇くすくすわい

滋賀県立大学は、滋賀県立短期大学を再編・発展させる形で、新たに4年制大学として平成7年（1995年）に開学し、これまで開かれた大学として、未来を志向した高度な学芸と、悠久の歴史や豊かな自然、風土に培われた文化を深く教授研究するとともに、未知の時代を切り拓く広い視野と豊かな創造力、先進的な知識、技術を有する有為の人材を養成し、地域社会に貢献をしてきました。

しかしながら、開学から20年を迎え、少子化やグローバル化などの進展により本学を取り巻く環境は大きく変化しています。本学も平成18年（2006年）に公立大学法人化し、機動力のある自律的な大学運営をめざして、さまざまな大学改革に取り組んできました。さらに本学では、環境の変化に的確に対応しつつ、社会の期待に応える大学運営を行うために中長期的な目標・戦略を定めることとし、先に平成32年（2020年）までに本学がめざすべき目標を定めた将来構想「USP2020ビジョン」*を策定し、教育、研究、社

〇活用目的

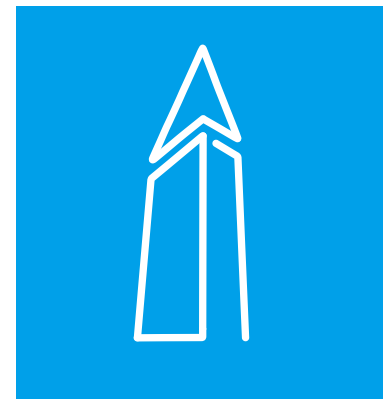
主に本学における学生支援（留学生を含む）や教育の拡充のために活用させていただきます。

- 奨学事業 (留学支援、優秀学生への奨学金など)
- 学生支援事業 (就職支援、学生生活支援、地域活動支援など)
- 教育環境改善事業 (教育施設の改修、整備など)
- 卒業生との交流事業 (情報提供、20周年記念事業など)



「知と実践力をそなえた人が育つ大学」
をめざしてご支援のお願い

未来人財基金



会貢献および国際化に向けた取組を進めてきているところです。

本学では、この「USP2020ビジョン」の達成に不可欠な安定した経営基盤を確立するために、授業料などの学生納付金や滋賀県から交付される運営費交付金に加え、科学研究費補助金やその他の競争的外部資金の獲得に全学をあげて取り組んでまいりました。しかしながら、昨今の厳しい地方財政や経済状況のもと、特に、地域社会が求める優秀な「人財」の育成のためには、これまで以上に多様で持続的な資金調達が必要となっています。

そこで、平成27年度（2015年度）に開学20周年を迎えるのを機に、広く学内外のみならず、まさらのご支援を仰ぎ、地域で活躍する「人財」を育成するために必要な学生支援や教育環境の充実を目的とする基金「滋賀県立大学未来人財基金」を設立し、未永く、未来を担う「人財」の育成に活用していくことといたしました。今後とも、全教職員一人ひとりがその重責を自覚し、「USP2020ビジョン」で描く本学がめざすべき大学の実現のために全力を尽くす所存です。

〇寄附金の振込方法

次のいずれかの方法によりお願いします。
ご寄附は何回でも可能です。寄附者様ごとに累計して管理させていただきます。
寄附金の入金を確認後、本学が発行する「寄附金領収書」をお送りします。

(1) 金融機関窓口(銀行、郵便局)での振込

本学所定の①振込用紙(銀行)または②払込取扱票(郵便局)をご利用いただき、お振込みをお願いいたします。銀行でお振り込みの場合は、恐れ入りますがご寄附いただく金額から手数料を差し引いた金額をお振込みください。また、郵便局でお振込みいただく場合の手料は、本学が負担します。振込用紙等が必要な方は基金事務局までご連絡ください。

(2) クレジットカード、Pay-easy または「んじゅぽ」振込

また「んじゅぽ」振込
本学寄附金サイト (<http://www.usp.ac.jp/kikin/>) の手順をお願いたします。
システムの関係上、千円単位のご寄附額となります。

滋賀県立大学が未来にわたって学生・卒業生・地域・県民のみなさまに愛され、地域の知の拠点として魅力ある大学であり続けるために、本基金の趣旨にご理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

公立大学法人滋賀県立大学理事長・学長
大田 啓一



*「USP2020ビジョン」の詳細は左記のURLをご覧ください。
<http://www.usp.ac.jp/user/usp/kikin/shouraikousou.pdf>

〇個人情報の取り扱い

本基金のためにご提供いただいた個人情報、寄附金收受業務及び寄附募集に関する業務のほか、本学からご寄附をいただいた方にご連絡する必要がある場合のみ利用させていただきます。

〇お問い合わせ先

滋賀県立大学財務グループ (基金事務局)
〒521-8533 彦根市八坂町2500
TEL 0749-28-8213・8214
FAX 0749-28-8471
✉ kikin@office.usp.ac.jp
URL <http://www.usp.ac.jp/kikin/>



開学20周年